2006年度特殊講義SB報告

『花がメインとなった観光地』へおこしになった方への意識調査

経営学部２回生

加藤佳奈

松本麻里

目次

はじめに

調査目的

調査概要

調査対象の構成

調査結果

I.　京都府立植物園での観光について
- i. 回答者が一緒に来演した人の割合
- ii. 京都府立植物園への訪問を決定した人物の割合
- iii. 京都府立植物園について知った手段の割合
- iv. 京都府立植物園の満足度の割合
- v. 京都府立植物園への再来園を希望する来園者の割合

II.
- i. 普段の休日の過ごし方の割合（何をして過ごすことが多いか）
- ii. 植物園への観光と普段の休日の過ごし方への思い入れの比較
  - ① 京都府立植物園までの交通手段の割合
  - ② 普段の休日に使う交通手段の割合
- iii. 京都府立植物園までの所要時間と休日に出かける際の目的地への所要時間の比率
  - ① 京都府立植物園までの所要時間の割合
  - ② 休日に出かける際の目的地への平均所要時間の比率

III.　花を観賞できる場所や施設について
- i. 花を観賞できる場所や施設への訪問経験の割合
- ii. この１年間で花を観賞できる場所や施設への訪問回数の割合
- iii. 訪問を希望する季節の割合
- iv. 花を観賞できる場所や施設を訪問する理由の割合
- v. 自分と花との関係について「日々のストレスからの癒し」と回答した割合

おわりに

はじめに

近年、電車やバスの車内広告や、駅や街の広告に、花や緑を観賞できる「花がメインとなった観光地」の広告が多くなったように感じる。私たちは、その理由を「日本特有の忙しい毎日の中でストレスを感じ、癒しを求めて花を中心とした観光」を求めるのではないか」、また、「環境問題が問題視され『エコロジー』や『エコツーリズム』といった言葉の流行が、人々を花と中心とした観光へ導いているのではないか」と仮説を立てたが、あくまでこれらは私たちの推測であり、真実を確かめるために、「人が花を求める理由」を調査目的に、アンケート調査を行うことに決めた。

【調査目的】

今日さまざまな観光地がある中で、『花を中心とした観光』が選ばれる理由の調査

【調査概要】

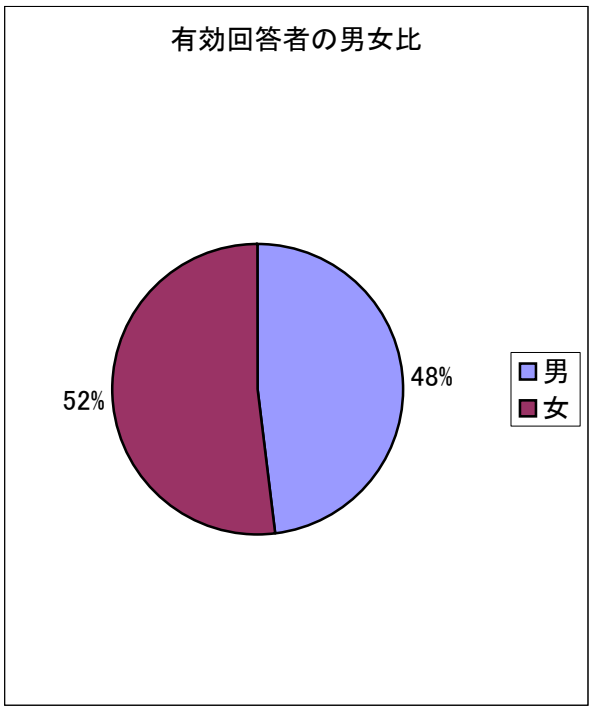
- 調査日時：2006 年 7 月 9 日　午前 11 時～午後 4 時
- 調査場所：京都府立植物園　北門前
- 調査対象：京都府立植物園への来園者
- 母体数：108 人
- 有効回答数：102 枚
- 調査方法：選択・自由解答形式のアンケート用紙を配り、その場で記入してもらった。

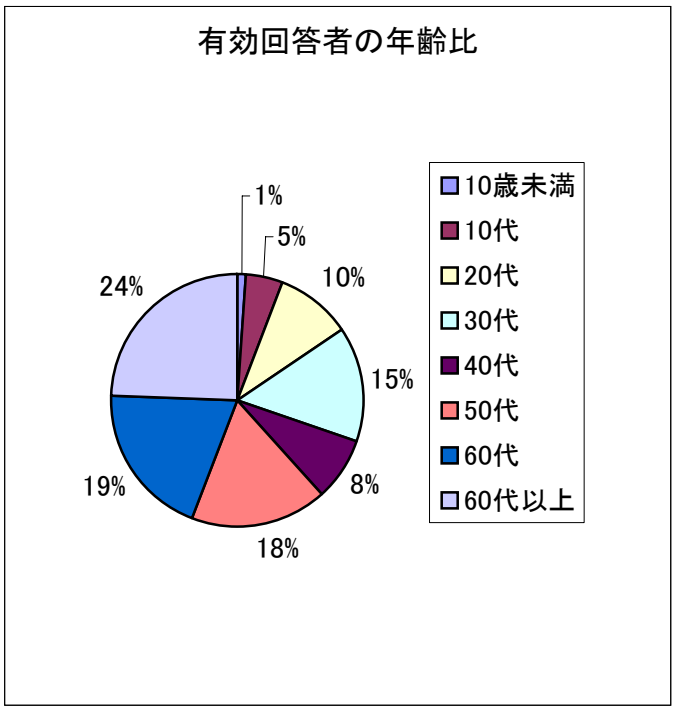
【注意点】

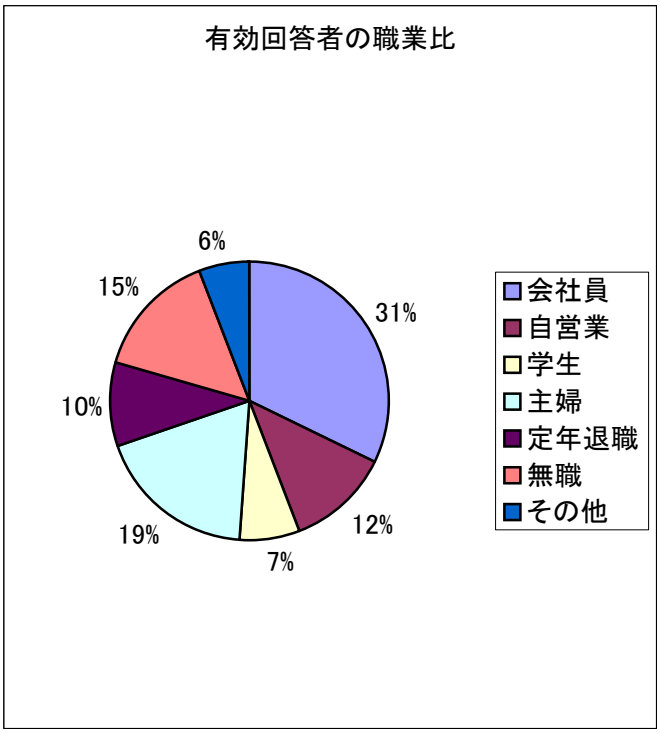
今回のアンケートでは、夫婦・家族・団体等、1 人以上の来園者の場合は「代表者」に回答してもらったため、それによるアンケート結果の偏りがある。

また、当日の 7 月 9 日は 3～4 月の桜のシーズン、5～6 月のバラと紫陽花のシーズンを経て、植物園のオフシーズンといっても良い時期であり、当日も日曜日の割に来園者が非常に少なかったと受付の方や常連の来園者から伺った。その上梅雨の時期で、暑く、いつ雨が降り出してもおかしくないという天候の下のアンケートであった。そして、アンケート調査場所が植物園の北門（駐車場とは反対側に当たる地下鉄北山駅下車すぐ）であった。こうした時期や天候、調査場所といった要素もまた、アンケート結果に多少の偏りを生じさせることとなったため、ご了承願いたい。

【調査対象の構成】





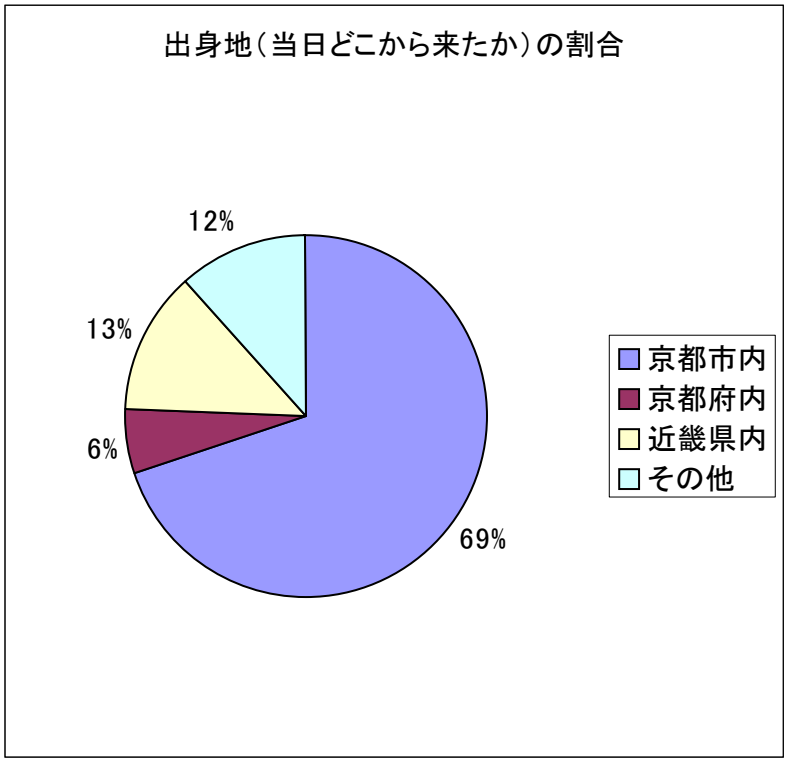


本調査は京都府立植物園の来場者を対象としたアンケートであり、有効回答者の男女比は男性が 48%、女性が 52%と、私たちが予測していたよりも女性の数が多かった。

年齢比に関しては、予想していた通り、50 代から 60 代以上の割合が非常に高く、定年後の 60 代・60 代以上だけでも 43%と全体の役半分を占めている。そして、これも予想通り

10 代未満や 10 代の来園者は非常に少なかった。しかし、予想に反して、働き盛りで休日は家でゆっくりすることを好むだろうと予想していた 30～40 代が割と多かった。同様に、一桁であろうと予測していた 20 代の割合も 10%と思っていた以上に高かった。職業のグラフと照らし合わせると、その 10%のほとんどを思いもよらず学生が占めていると思われる。映画やショッピング、テーマパーク等へ出かけることを好むだろうと考えていたので、「以外に多い」ことを発見できた。

職業について詳しく見ていくと、会社員が 31%と最も高く、続いて主婦が 19%、無職が 15%、自営業が 12%、定年退職が 10%最も少ないその他の 6%には、大学職員、ヘルパーといった答えがあった。予想通り、女性の来園者には主婦が多く、定年退職（若干の無職を含む）も多かった。予想に反して一番多かった会社員の構成は、30 代が一番多く、次いで 50 代と 20 代、そして 40 代と 60 代という振り分けだった。主婦の構成では、主に 50 代～60 代の女性が大半を占めていた。子育てが終えて自由な時間が出来たからであろうか。無職の 15%の中には、定年退職の方が若干含まれてしまっている可能性があるので、定年退職の 10%という割合はもう少し高い可能性が高い。



出身地（当日どこからきたか）の構成比は上図のように、京都市内からが 69%、近畿県内からが 13%、その他が 13%、そして京都府内が 6%だった。予想通り京都市内が一番多かったが、思っていたよりも割合が大きかった。つまり「地元の人」が多かったということである。この点については【調査結果】でもう少し触れる。その分、予想に反して近畿圏内や京都府内が非常に少なかった。その他には、沖縄やイギリスという回答があった。

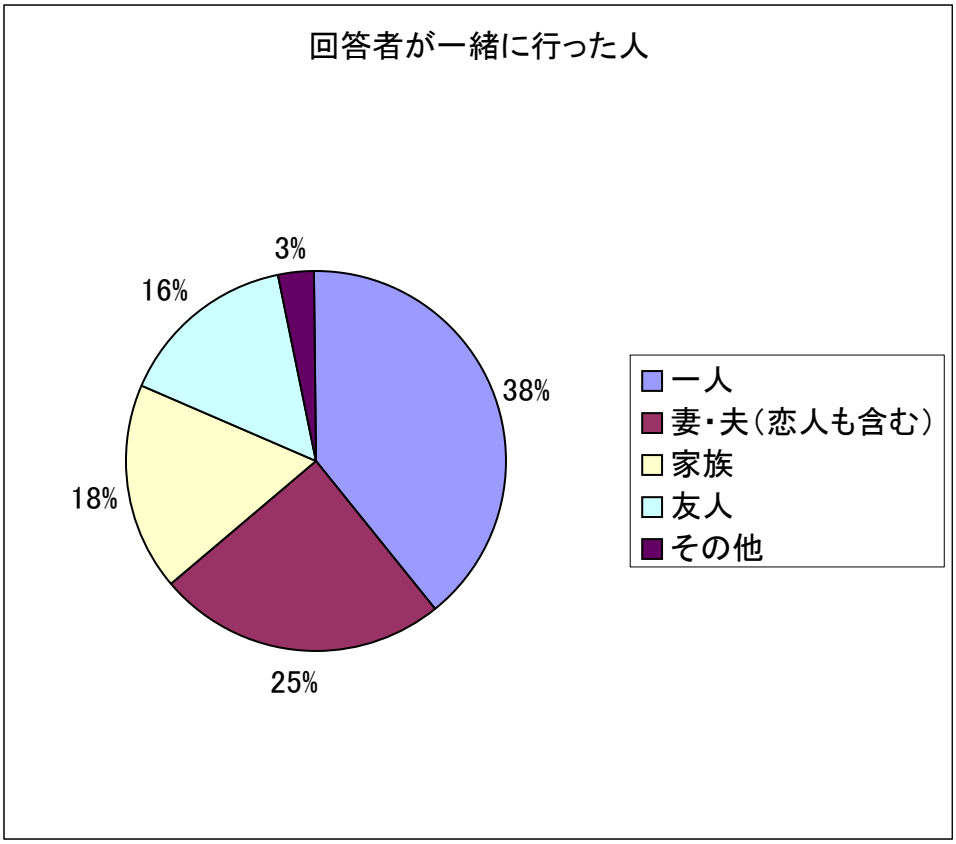
なお、【注意点】でも触れたように、今回のアンケートでは、夫婦・家族・団体等、１人以上の来園者の場合は「代表者」に回答してもらったため、それによる偏りがあると思われる。回答者が一緒に来演した相手に関しては、後述の【調査結果】内で説明する。

【調査結果】

調査結果の流れは目次の通りである。

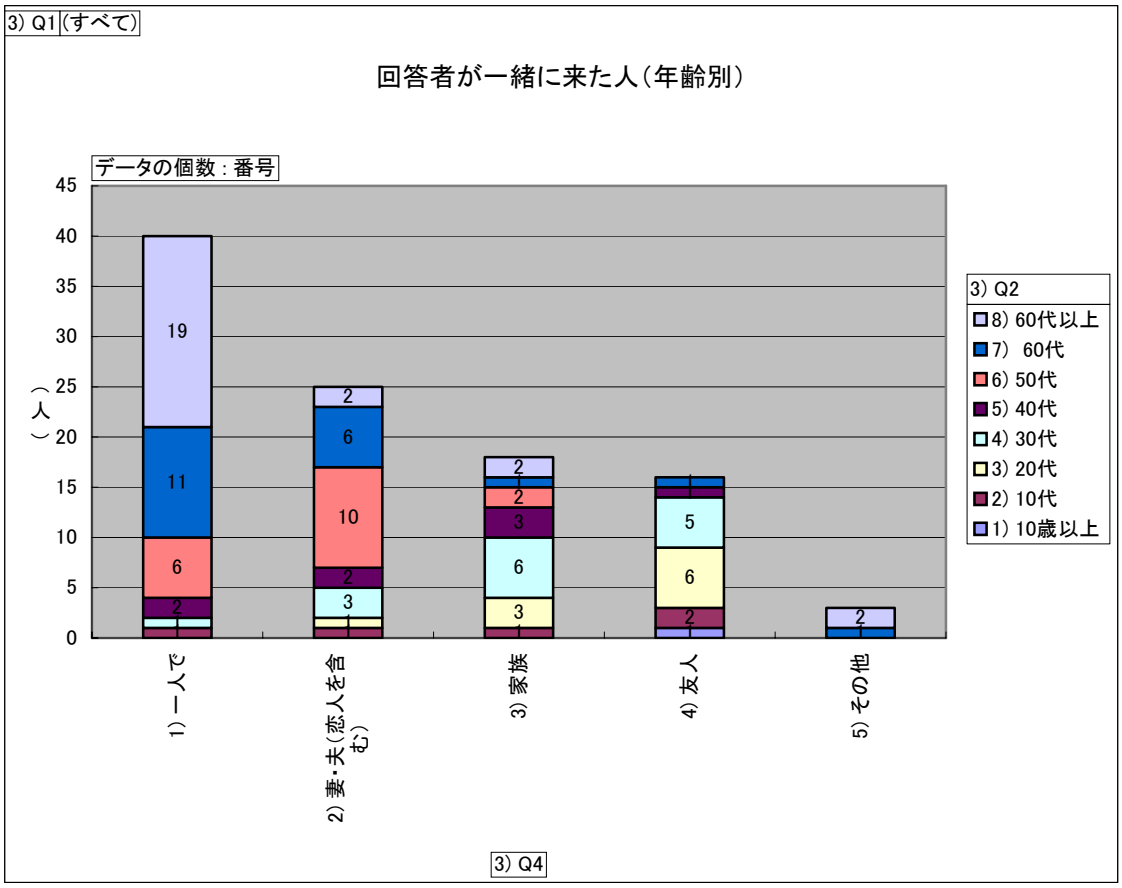
IV.　京都府立植物園での観光について

i.　回答者が一緒に来演した人の割合



一人で来た人が 38%と一番多く、次いで配偶者や恋人の 25%、家族で来た人が 18%友人と来た人は 16%であった。一番少ないその他には、主に仕事関係者が含まれていた。このままでは年齢比や男女比が明確ではないので、主に一番割合の高い「一人で来た人」の具体的な内容を分析するために、≪総合（男女）：回答者が一緒に来た人（年齢別）≫、≪回答者が一緒に来た人（男女別）≫、≪男性：回答者が一緒に来た人（年齢別）≫そして≪女性：回答者が一緒に来た人（年齢別）≫、そして≪回答者が一緒に来た人×職業≫のグラフを作成した。

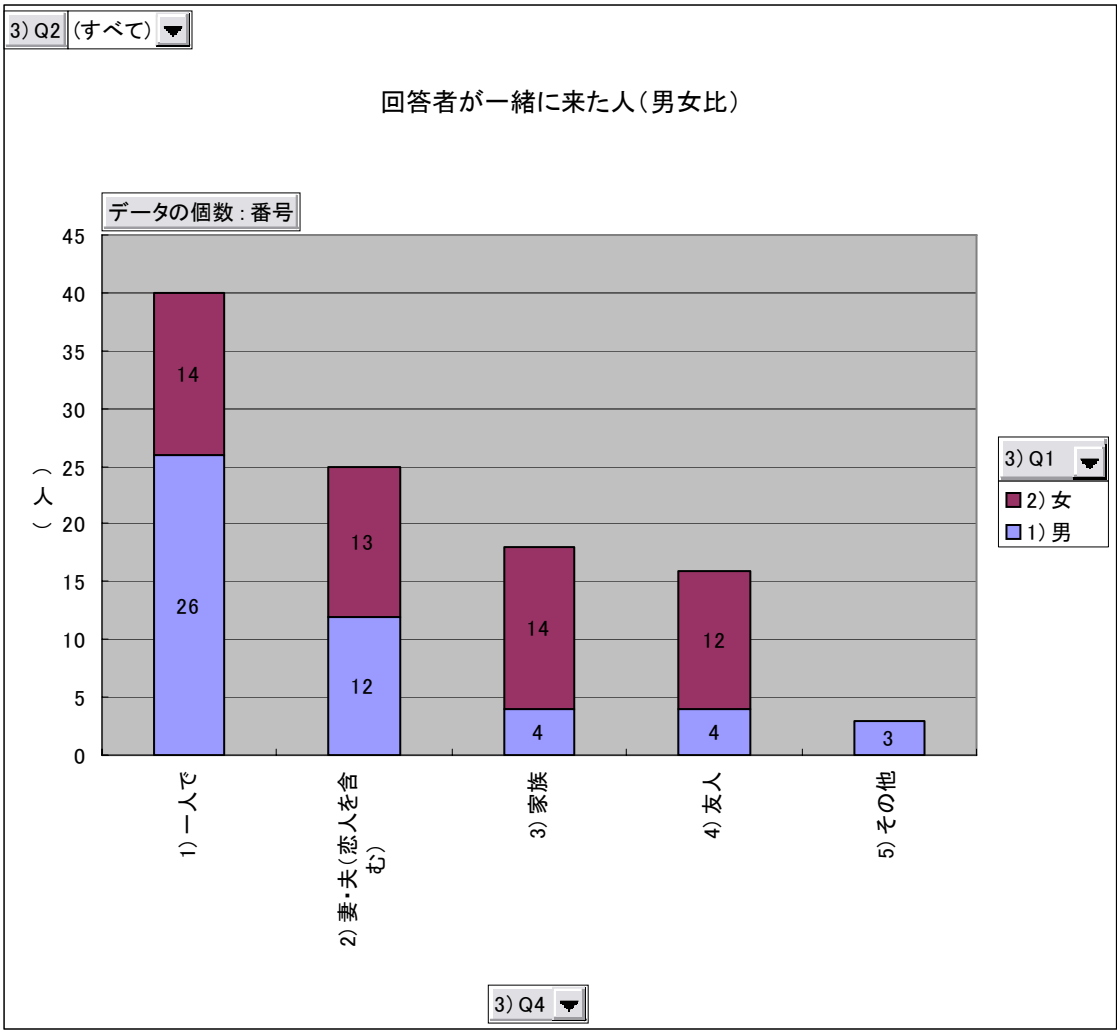
≪総合（男女）：回答者が一緒に来た人（年齢別）≫



上図≪総合（男女）：回答者が一緒に来た人（年齢別）≫から、一人で来た人の半分以上が 60 代～60 代以上であり、その中でも 60 代以上は一段と多かった。妻・夫（恋人を含む）は、50 代以上が目立つので、カップルに比べて夫婦が半数以上を占めているということになる。家族の来園者は自分たちが目で見て覚えているだけでも 30 代～40 代くらいの保護者とまだ小さな子どもか中学生くらいの子ども達をつれていたという特徴があった。結果をみても、30 代あたりの平均年齢の低い家族が多かったことを示している。友人同士の来園者も、結果が示すように 20 代～30 代後半が多かったことを自分たちもよく覚えている。その他に〇をつけていた老人たちは、地域団体の集まりであった。

次ページの図≪回答者が一緒に来た人（男女別）≫では、主に一番割合の高い「一人で来た人」の具体的な内容を分析するため、回答者が一緒に来た人の部門で（回答者の）男女別に分析した。

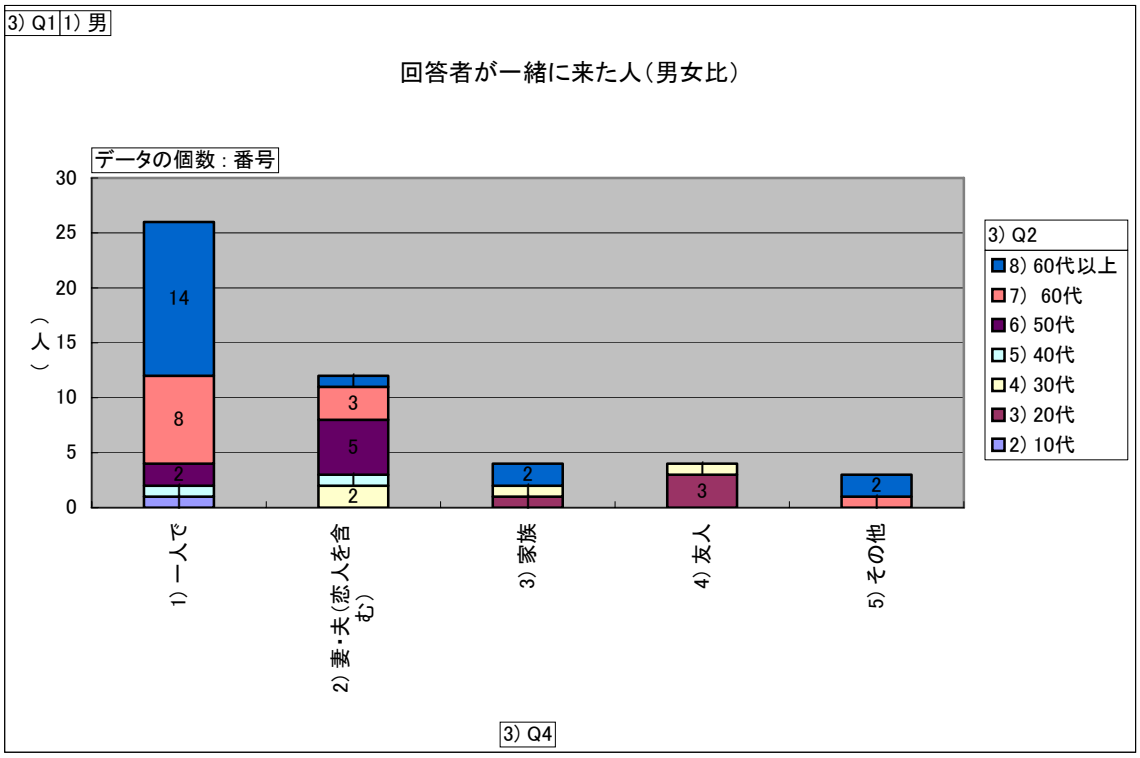
≪回答者が一緒に来た人（男女別）≫



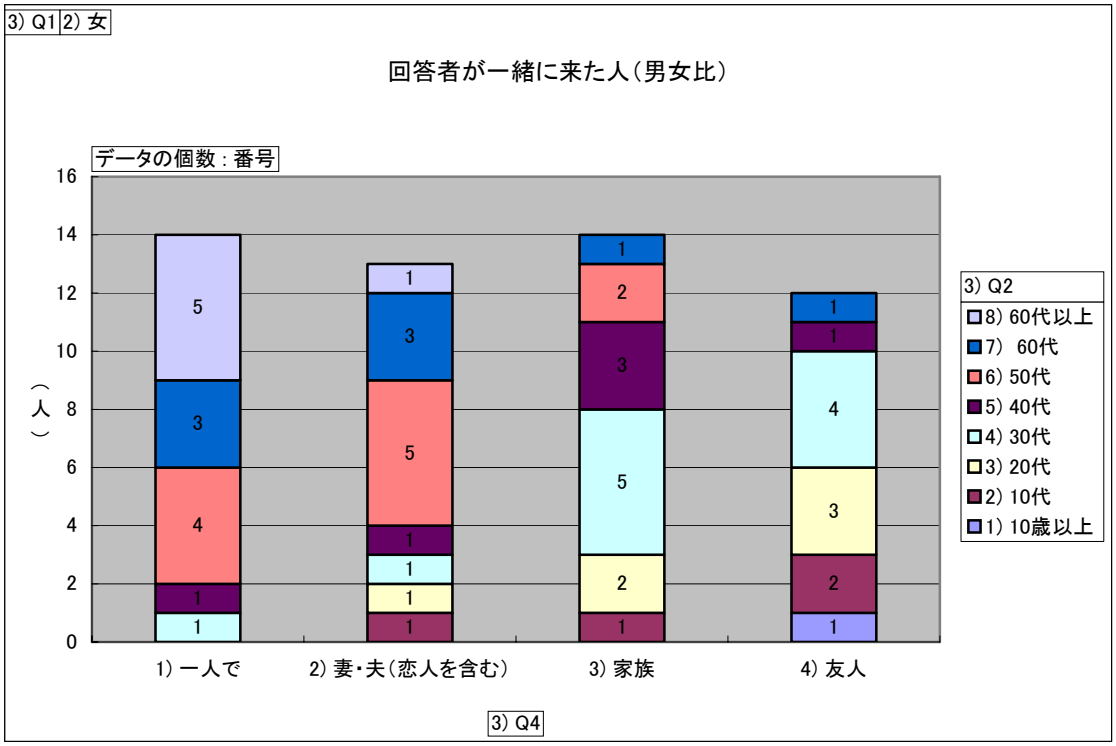
上の≪男性：回答者が一緒に来た人（年齢別）≫から、一人で来た人の多くがが男性だった。それ以降の妻・夫（恋人を含む）や家族などは、代表者が男女どちらであったかによるが、それについては後ほど触れることにする。

次ページの図≪男性：回答者が一緒に来た人（年齢別）≫と≪女性：回答者が一緒に来た人（年齢別）≫では、これもまた主に一番割合の高い「一人で来た人」の具体的な内容を分析するため、男性回答者が一緒に来た人と女性回答者が一緒に来た人の部門を分析した。

≪男性：回答者が一緒に来た人（年齢別）≫



≪女性：回答者が一緒に来た人（年齢別）≫



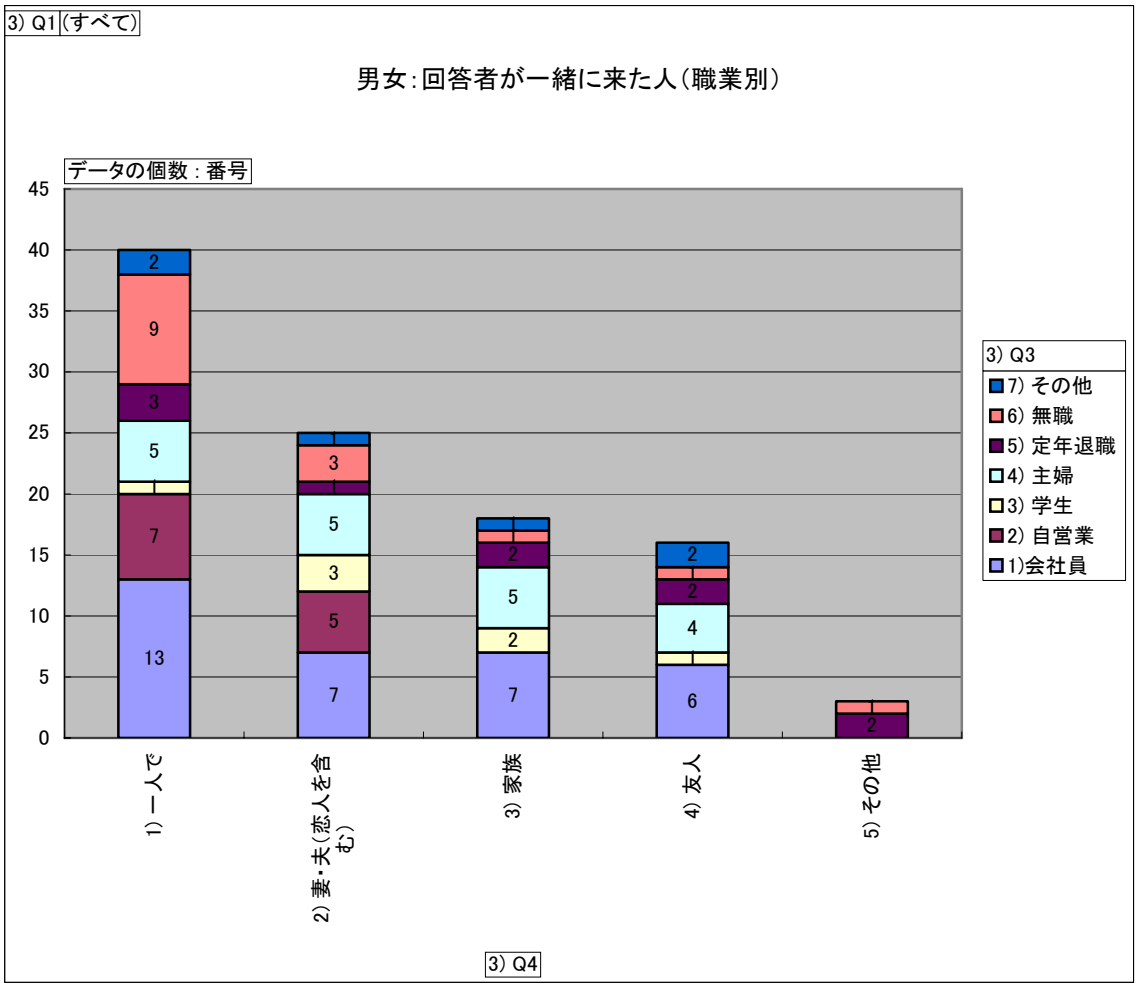
興味深いことに、≪男性：回答者が一緒に来た人（年齢別）≫と≪女性：回答者が一緒に来た人（年齢別）≫にはかなり大きな差がでた。8 ページの≪回答者が一緒に来た人（男女別）≫から、一人で来た来園者の多くは男性であったが、上図から、その多くは 60 代から 60 代以上であることがわかった。一方、女性は全体的に少し若く、一人で来た人の中には 50 代から 60 以上までの人が含まれていた。

先ほど触れていた「友人同士の来園者」は、主に女性であることも、この図から判明した。

夫・妻（恋人を含む）や家族については、代表者が答えたため、後に触れる。

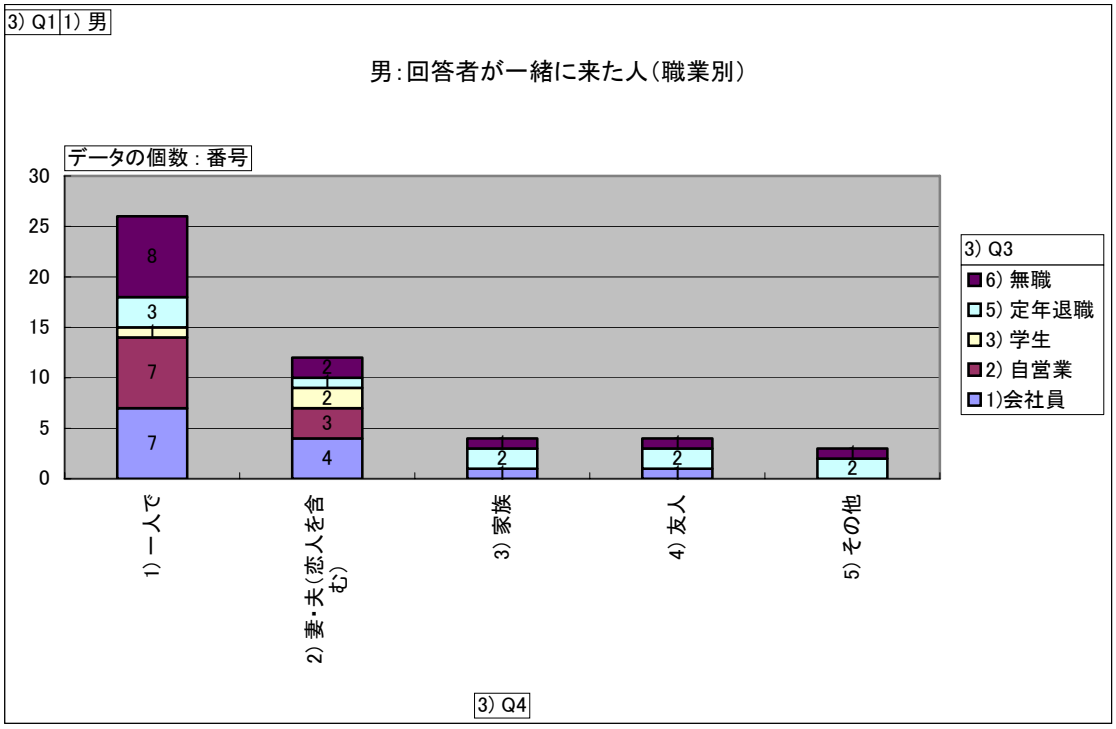
様々な関係にますます興味が沸いてしまい、次は≪回答者一緒に来た人×職業≫のグラフを分析してみた。

≪総合（男女）回答者一緒に来た人×職業≫

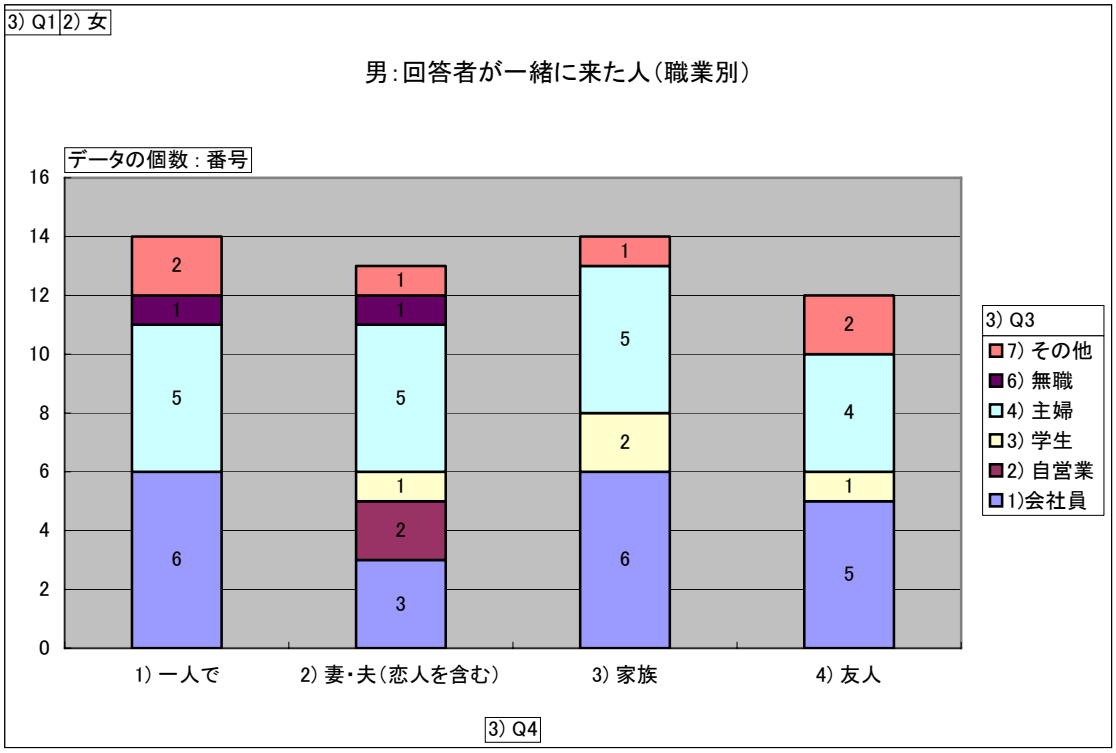


一人で来園する会社員、定年を含む無職が多いようである。家族・友人・その他には自営業が全くなかったのは不思議であったこと、そして主婦がどの場合も同じ人数ずついることは興味深かった。

≪男性：回答者一緒に来た人×職業≫

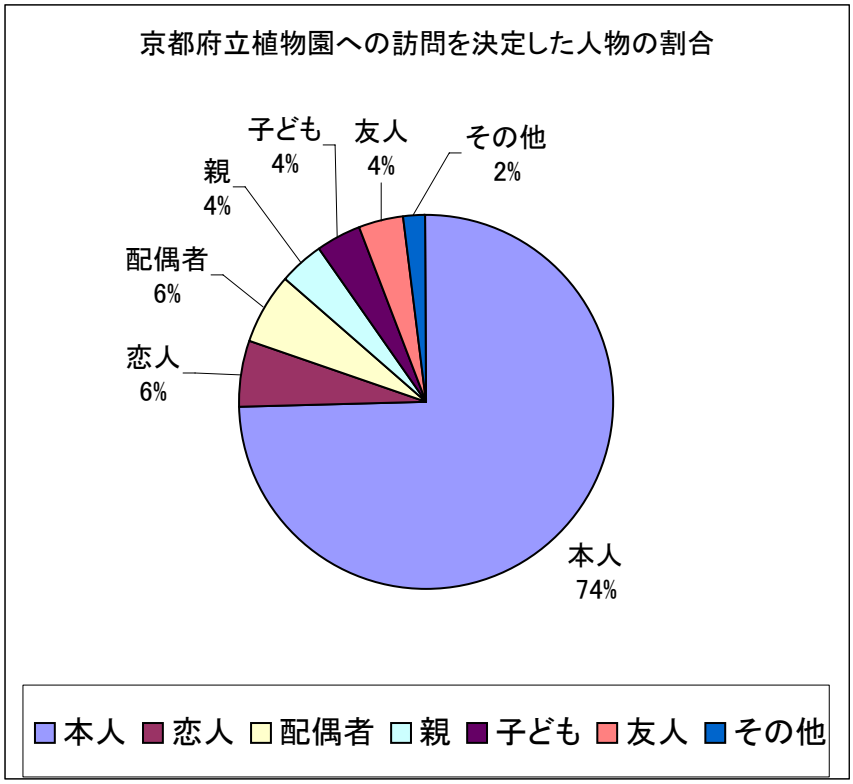


≪女性：回答者一緒に来た人×職業≫

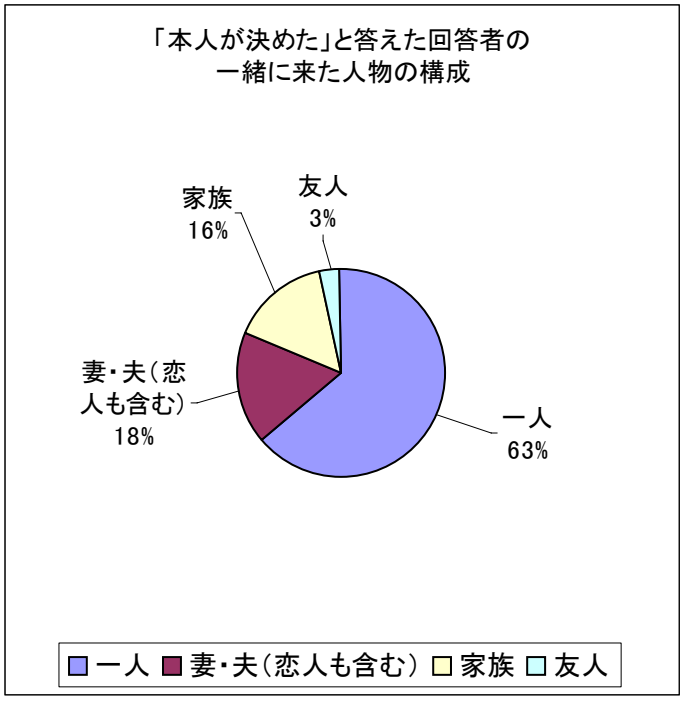


一番割合の多かった「一人で」の来園者を分析すると、友人と来た来園者のほとんどは女性で、前述の年齢比と照らし合わせると 30～40 代の主婦ということになる。また、全体的に 30～50 代の会社員・自営業者が多かったという特徴も発見できた。

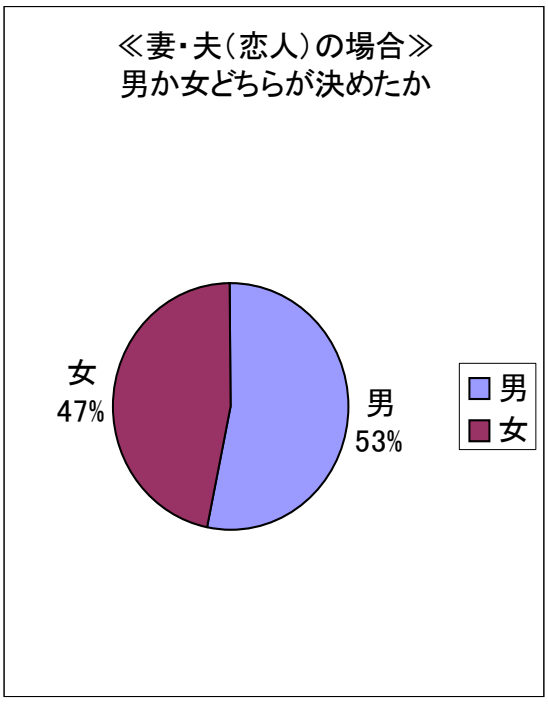
ii. （i のうち）京都府立植物園への訪問を決定した人物の割合

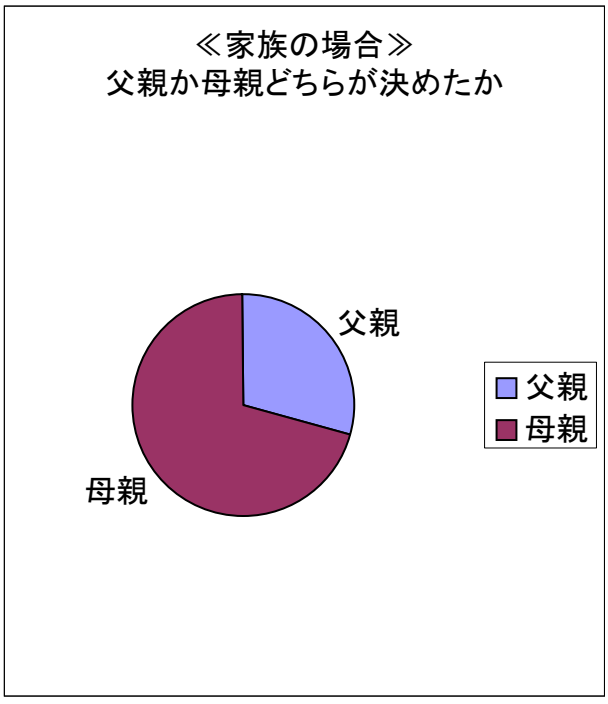


京都府立植物園への訪問を決定した人物の割合は、本人が 74%と最も高く、次いで 6%の恋人と配偶者、4%の子どもと友人、そして 2%の保護者だった。前の「回答者が一緒に来演した人の割合」で、一人が多かったことから「本人」が多いことは予測できたが、先ほどの 39%の約 2 倍である 74%という大きな数字に興味を示し、その内訳を調べると、次のようになった。



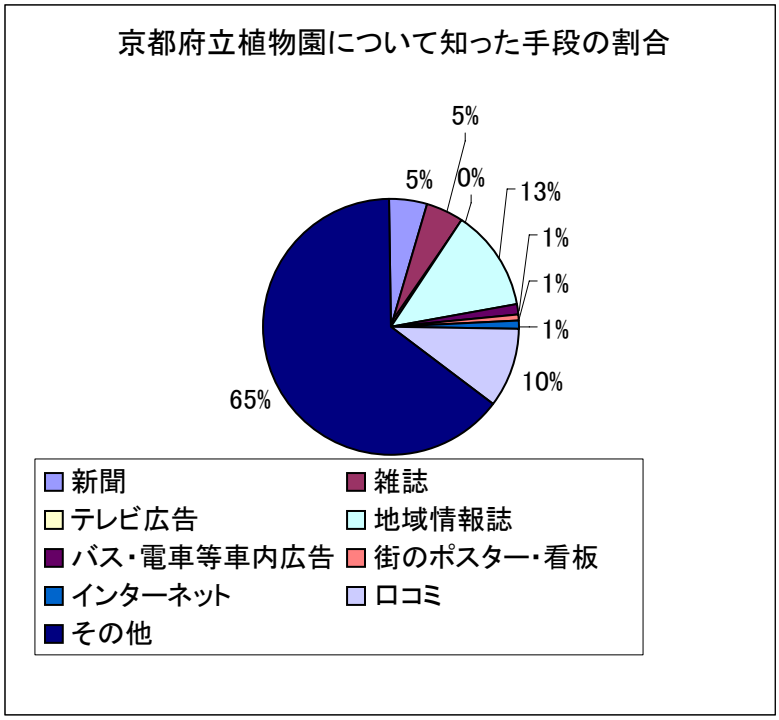
やはり一人が多いが、妻・夫（恋人を含む）の 18%と、家族の 16%が目立った。本調査では代表者にのみアンケートに答えてもらっていたので、妻・夫（恋人を含む）が夫（彼氏）か、妻（彼女）かどちらを意味しているのか、また、家族の場合、父親か母親かどちらを意味しているのかが不透明であったため、次のグラフを作った。





恋人時代、また、子どもが生まれるまでの間は若干女性の方が積極的に花の観光地への訪問を決定する傾向にあり、結婚して子どもが生まれてからは女性の決定権が強くなるのか、ほぼ母親が花の観光地への訪問を決定していた。(「代表者の方がお答えください」とアンケート渡すと女性の方が受取った、または男性が女性を進めた。) これはとても興味深かった。

iii. 京都府立植物園について知った手段の割合

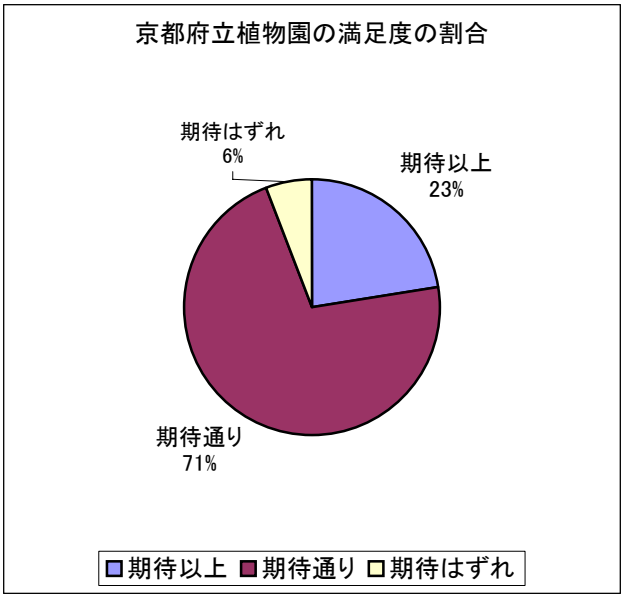


京都府立植物園について知った手段の割合は、その他が一番高い 65%、次いで市域情報誌の 13%、口コミの 10%、バス・電車等車内広告と、雑誌の 5%、新聞・街のポスター・インターネットの 1%、そしてテレビ広告の 0%であった。「今日の植物園」というページを設け、その日その日の見ごろの花を毎日更新している立派なウェブページがあるにも関わらず、インターネット利用者が少なかったことは興味深かった。無論、このことは来園者の年齢が高かったことが原因であると思われる。

最も予想していなかったのはこの「京都府立植物園について知った手段の割合」であった。その他の 65%のほとんどが、「地元からの来園者」であった。【注意点】でも触れたように、当日の 7 月 9 日は 3～4 月の桜のシーズン、5～6 月のバラと紫陽花のシーズンを経て、植物園のオフシーズンといっても良い時期であり、当日も日曜日の割に人がかなり少なかったと受付の方から聞いた。その上梅雨の時期で、暑く、いつ雨が降り出してもおかしくないという天候の中、やってくる来園者は地元の人に限られていた。今後の調査結果もこのことに大きく左右されることとなった。

iv. 京都府立植物園の満足度の割合

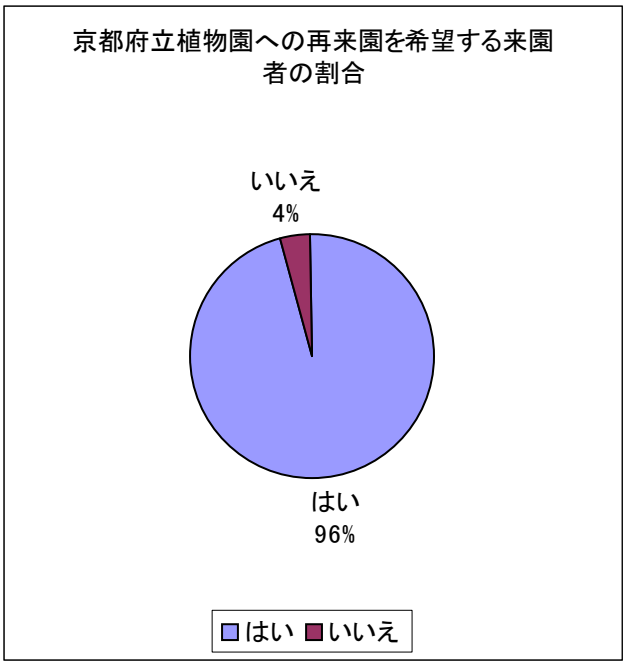
植物園に来演する人々がどれくらい期待し、この日の来園によってその期待が満たされたかどうかを調べるため、満足度を聞いた。結果は下図の通りである。



京都府立植物園の満足度の割合は、期待通りが 71%、期待以上が 23%、期待はずれが 6%だった。

v. 京都府立植物園への再来園を希望する来園者の割合

上述の「京都府立植物園の満足度の割合」を踏まえ、京都府立植物園に再来園を希望するか否かを調べた。結果は以下の通りであった。



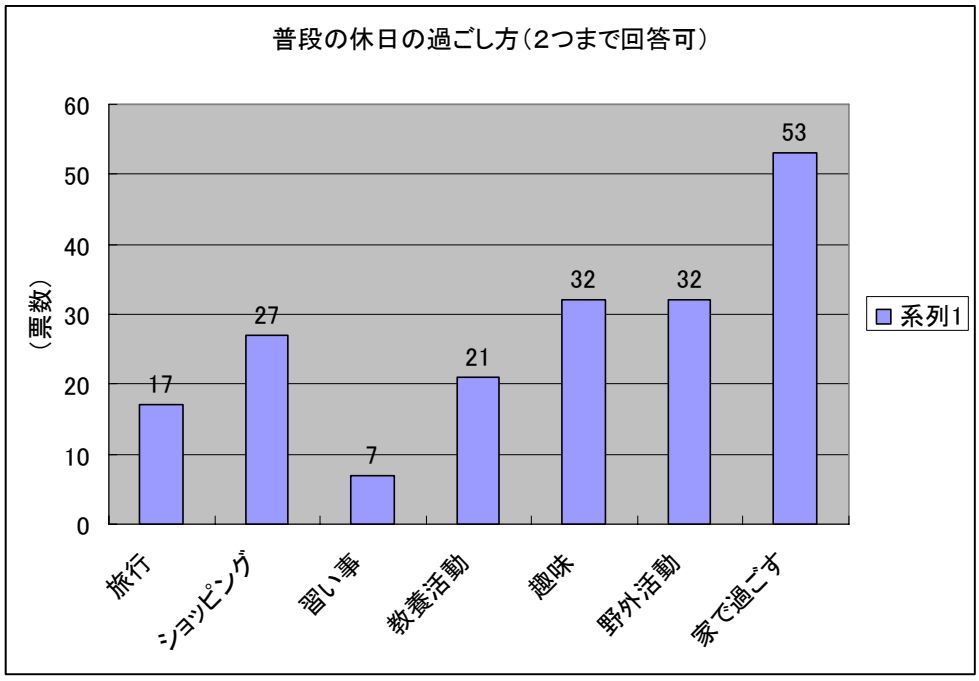
この質問に対する答えは予想通り「はい」が 96%でほとんどを占め、「いいえ」は 4%と非常に少なかった。前述の【京都府立植物園の満足度の割合】で「期待以上」と答えていた来園者の全員が、「はい」と答えた人たちだった。同じく、「期待通り」と答えていた来園者 73 人のうちの 2 人を除く全員が、「はい」と答えていた。また、「期待はずれ」と答えていた 6 人の中でも「はい」と答えている人がほとんどであった。今回は「目当ての花がなかった」からこそ、次回目当ての花を楽しむという理由を書いていた方もいた。

直前に少し触れたが、ここでは「はい」と答える理由と、「いいえ」と答える理由も一緒に調べた。「はい」の詳しい理由については、後述の【花を観賞できる場所や施設を訪問する理由の割合】や、【自分と花との関係について「日々のストレスからの癒し」と回答した割合】と類似する点が多いため、後ほど紹介する。「いいえ」の理由については書いている人がいなかった。

V. 植物園への観光と普段の休日の過ごし方から見るそれぞれへの「思い入れ」の比較

「花がメインとなった観光地」への思い入れが強いのならば、普段使う交通手段や普段の休日に出かける際に目安とする目的地までの所要時間と何か違いがあるかもしれないと思い、i 普段の休日の過ごし方、ii 京都府立植物園までの所要時間と休日に出かける際の目的地への交通手段の比率、iii 京都府立植物園までの所要時間と休日に出かける際の目的地への所要時間の比率を調べることにした。結果は次のとおりだった。

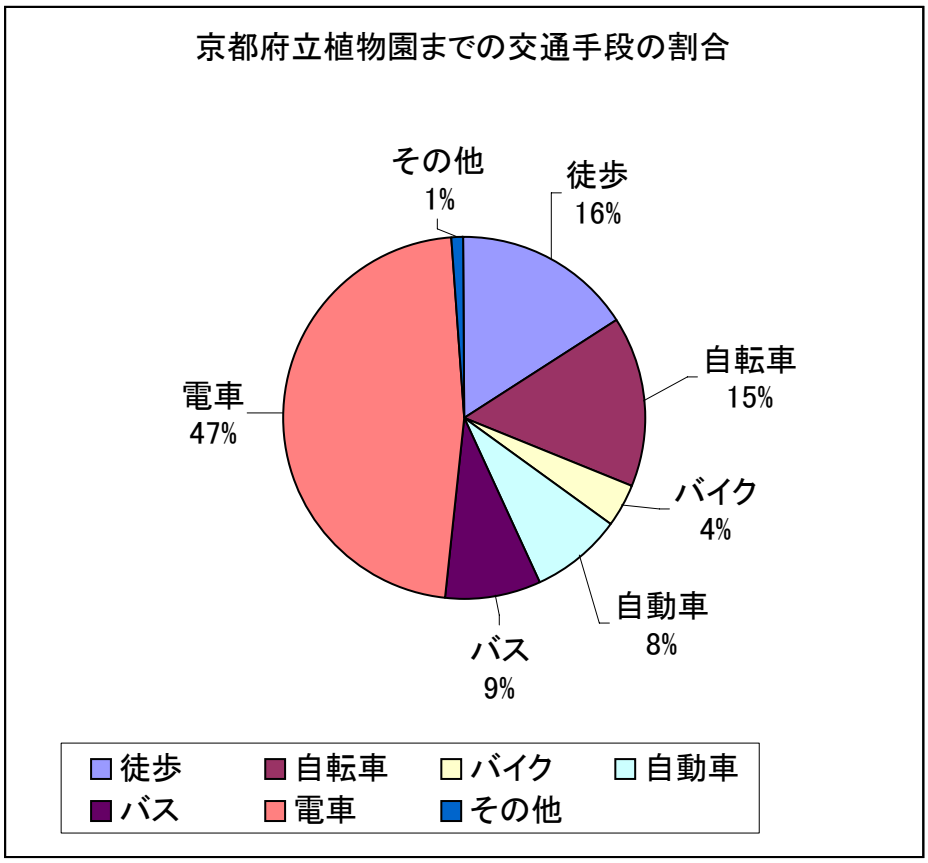
i. 普段の休日の過ごし方（何をして過ごすことが多いか）



普段の過ごし方は、「家で過ごす」の 53 票がもっとも多く、次いで「趣味」・「野外活動」の 32 票、「ショッピング」の 27 票、「教養活動」の 21 票、「旅行」の 17 票、そして最も少なかったのは「習い事」の 7 票であった。家で過ごす人が多い中、一番込み合うと予測される日曜日にもかかわらず、植物園に足を運ぶということは、何らかの思い入れがあるということができるのではないかと私たちは考えた。

ii. 京都府立植物園までの所要時間と休日に出かける際の目的地への交通手段の比率

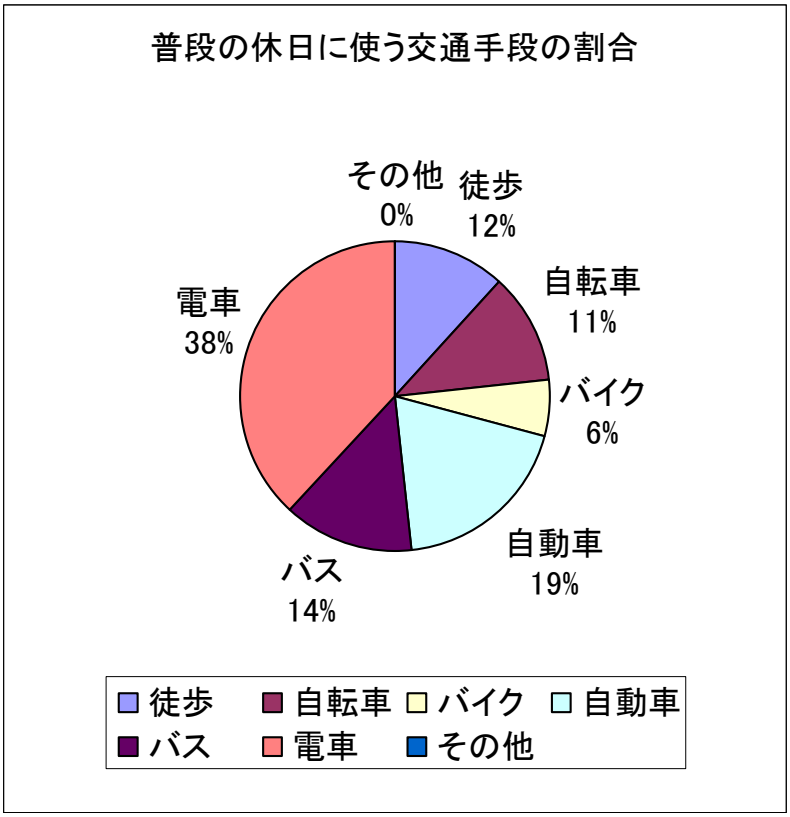
① 京都府立植物園までの交通手段の割合



京都府立植物園までの交通手段の割合は、電車が 47%、次いで徒歩が 16%、自転車が 15%、バスが 9%、自動車が 8%、バイクが 4%、その他が 1%という内訳だった。

アンケートをとった場所が、地下鉄北山駅すぐの植物園の北門のみであったため、電車で来る来園者の割合が多いことは事前に予測していたが、予想よりも自転車や徒歩でやってきた人が多かった。徒歩や自転車でやってきた来園者の多くは、前述で触れた「地元の人々」であった。また、子供を連れて自転車でやってくる家族や、自転車でやってくる老人が多かった。

② 普段の休日に使う交通手段の割合

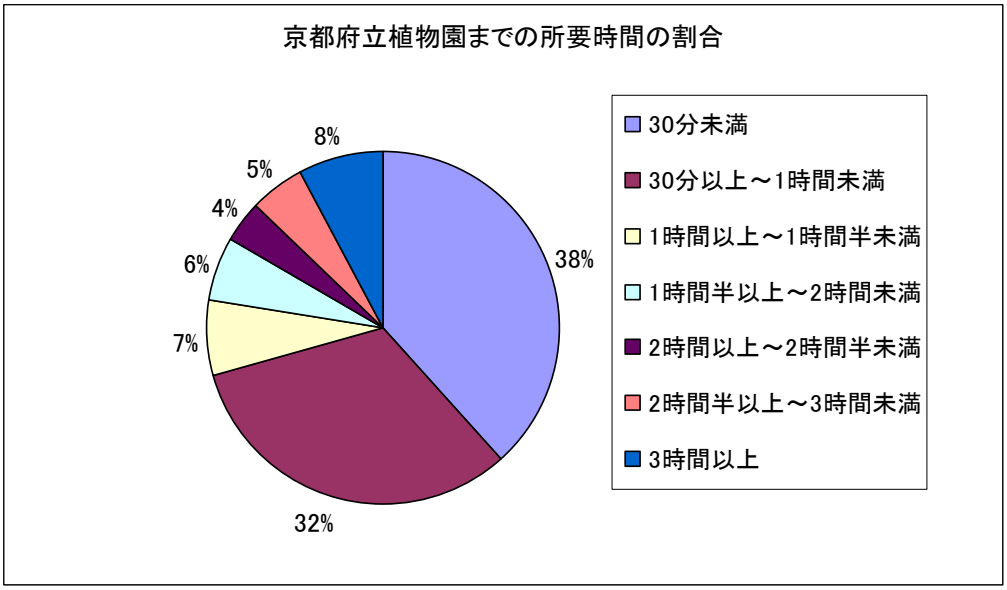


普段使う交通手段の割合は、電車が 38%、自動車が 19%、徒歩が 12%、自転車が 11%、バイクが 6%、そしてその他が 0%であった。

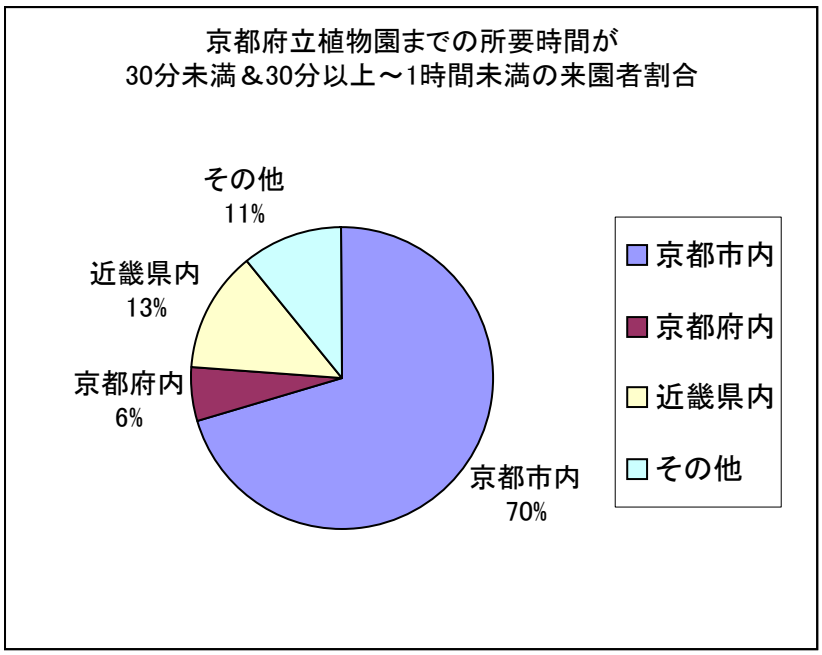
「花がメインとなった観光地」への思い入れが強いのならば、普段とまた違った交通手段を使う、特に、普段よりも遠くへ出かけるために電車や車に乗ることが多いのではないかと仮説をたてていた。予想通り、前述の植物園までの交通手段として電車の割合よりも、普段の電車の割合のほうが少なかった。しかし、予想に反していたのはやはり自動車の利用であった。アンケートをとった北門は、自動車の駐車場とは逆方面であったため、自動車でやってきた来園者にほとんどといっていいほどアンケートをとってもらうことができなかったことが少し影響していると考える。普段の交通手段として徒歩を選ぶ人の割合が、植物園の場合よりも少ないことは、前述で説明したとおり、植物園来園者に地元の来園者が多かったからであると考える。

iii. 京都府立植物園までの所要時間と休日に出かける際の目的地への所要時間の比率

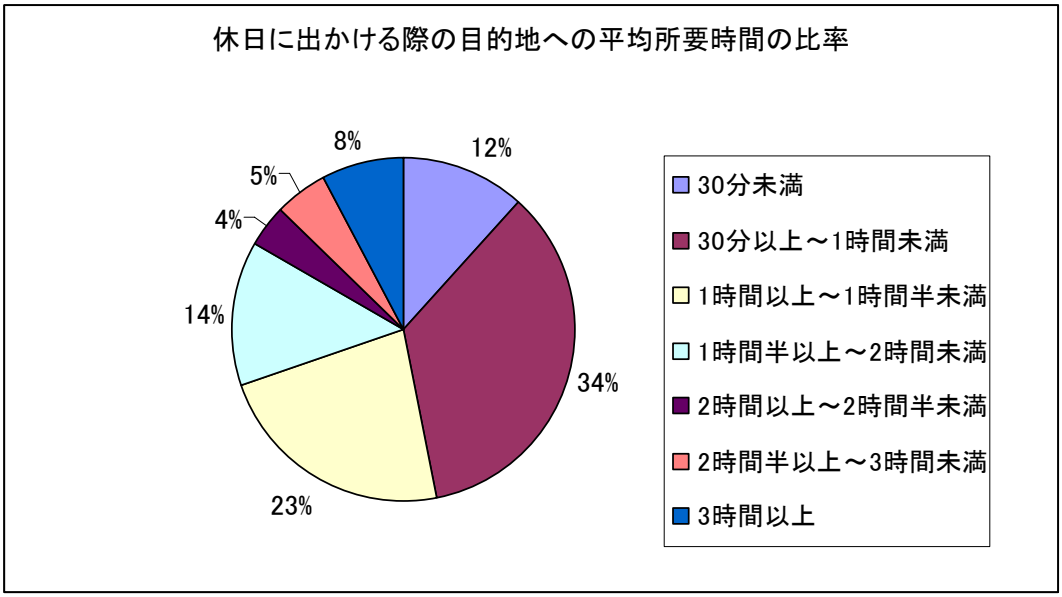
① 京都府立植物園までの所要時間の割合



京都府立植物園までの所要時間の割合は、30 分未満が 38%、30 以上～1 時間未満は 32%、1 時間以上 1 時間半未満が 7%、1 時間半以上～2 時間未満が 6%、2 時間以上～2 時間半未満が 4%、2 時間半以上～3 時間未満が 5%、その他が 8%だった。下図≪京都府立植物園までの所要時間が 30 分未満＆30 分以上～1 時間未満≫から、30 分未満の 38%、30 以上～1 時間未満の 32%は、「地元の人」によってしめられていると考えられる。



② 休日に出かける際の目的地への平均所要時間の比率



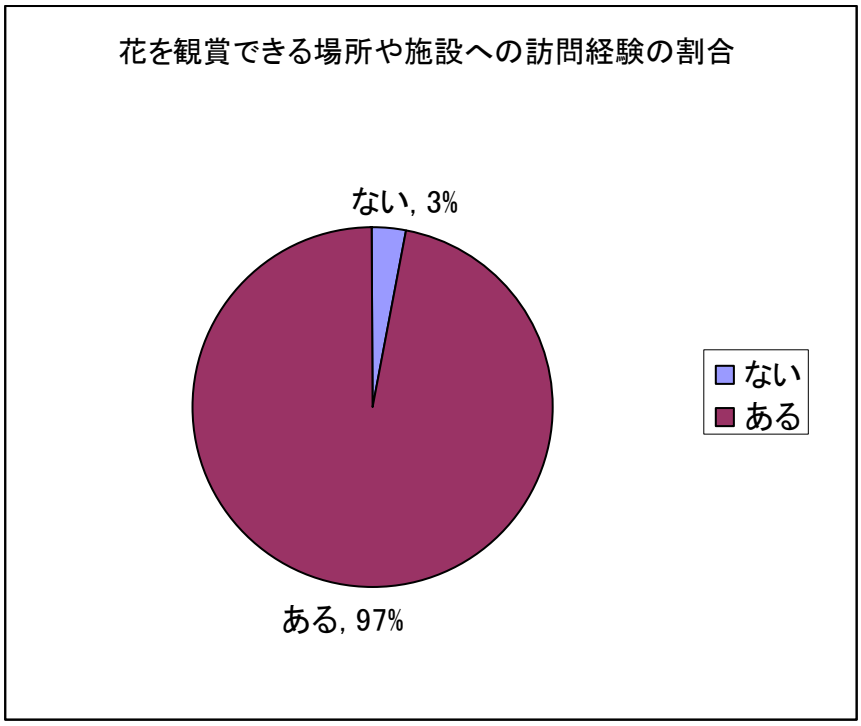
休日に出かける際の目的地への平均所要時間の比率は、30 分未満が 12%、30 以上～1 時間未満は 34%、1 時間以上 1 時間半未満が 23%、1 時間半以上～2 時間未満が 14%、2 時間以上～2 時間半未満が 4%、2 時間半以上～3 時間未満が 5%、その他が 8%だった。2 時間以上～2 時間半未満が 4%、2 時間半以上～3 時間未満が 5%、その他が 8%が、京都府立植物園までの所要時間の割合と同じであることは興味深かった。

「花がメインとなった観光地」への思い入れが強ければ、普段よりも目的地までの所要時間を多く見積もるのではないかと予測していた。しかし、予想に反して、普段の休日に出かける際の目的地までの所要時間の見積もり時間の方が、植物園に来るまでの所要時間よりも全体的に長かった。

VI. 花を観賞できる場所や施設についての質問項目から見る花の観光への「思い入れ」

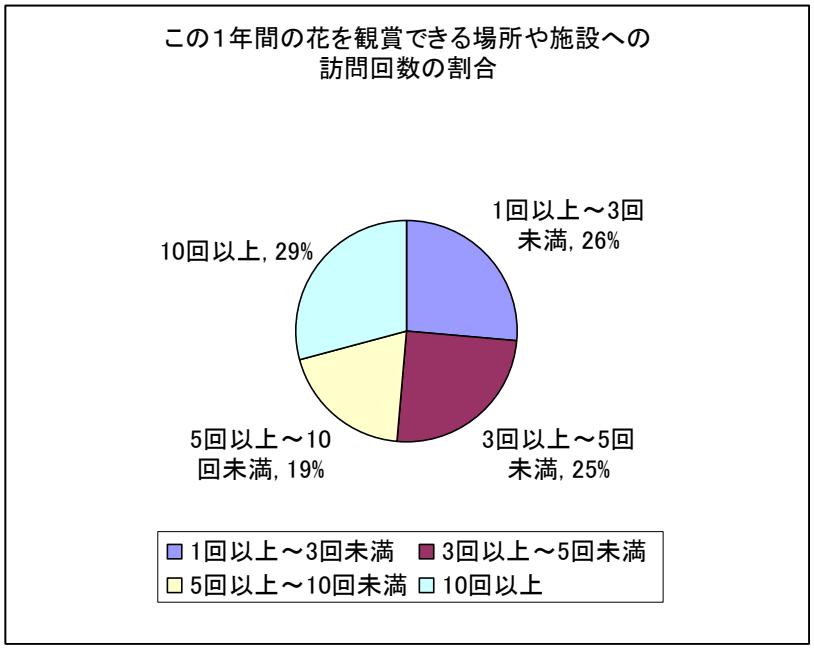
花をメインとした観光地への思い入れが強ければ、今回訪れていた京都府列植物園以外も含め、これまでにも花を観賞できる場所や施設へ訪問した経験があるのではないかと考え、次の調査を行った。

i. 花を観賞できる場所や施設への訪問経験の割合

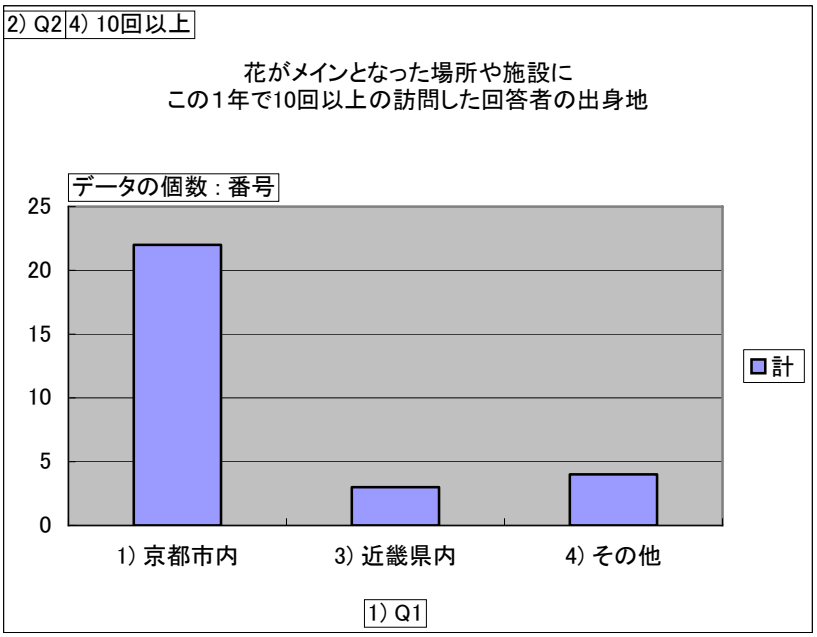


予測していた通り、これまでに花を観賞できる場所や施設へ訪問した経験がある人がほぼ100%であった。幼稚園や小学校、中学等から、教養の一環として自らの決断に基づいていない訪問という可能性もあるが、97%という圧倒的多数から、そういった点は考慮しない上で、このデータを踏まえてこの１年間の花を観賞できる場所や施設への訪問回数を調べた。

ii.　この１年間の花を観賞できる場所や施設への訪問回数の割合
（i であると答えた人のみ）



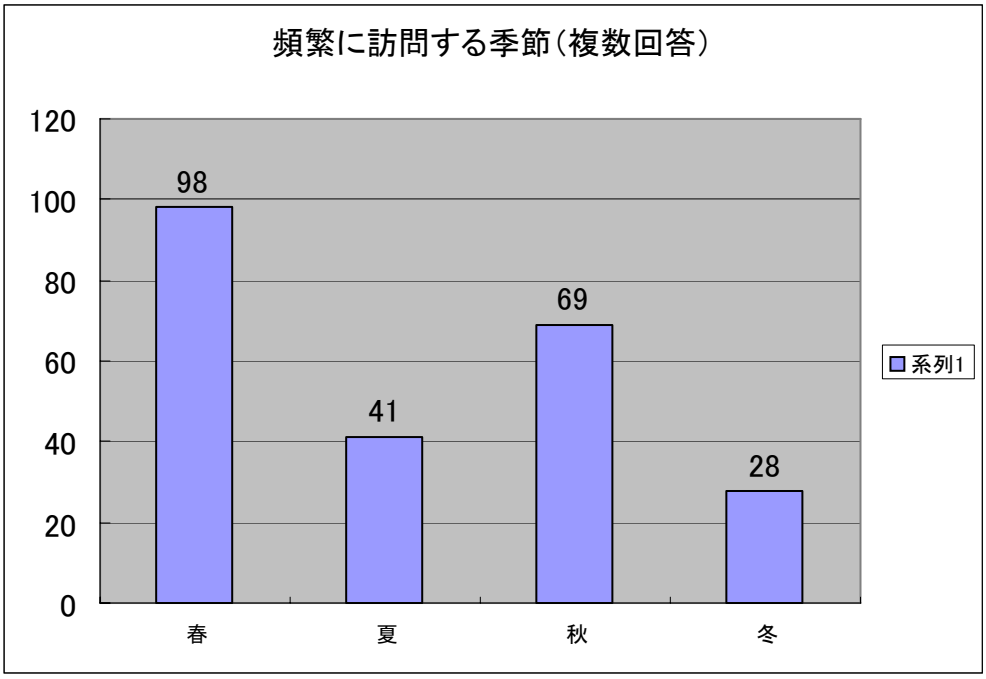
この１年間の花を観賞できる場所や施設への訪問回数の割合は、10 回以上が 29%、1 回以上～3 回未満が 26%、3 回以上～5 回未満が 25%、5 回以上～10 回未満が 19%となっていた。1 回以上～3 回未満が約三分の一を占める大きな割合であったことは予測できたが、予想に大きく反して 10 回以上が 29%と一番大きな割合を占めていたことには非常に驚いた。しかし、同時にこれらは一番多くの割合を占めていた「地元住民」の影響ではないかと予想した。したがって、この 10 回以上と答えた回答者を分析した。



予想通り、花がメインとなった場所や施設にこの 1 年で 10 回以上訪問した回答者の出身地（当日どこからきたか）は地元の人であった。さらに、京都府内の人々がいないが、近畿圏内の人々はいるという、若干奇妙な結果となった。

先ほどの大きな数字、「10 回以上」というのは、地元住民の方々が、常連として京都府立植物園に訪問していることによる影響である可能性は高い。ただ、その場合、同じ場所でも季節ごとに、（10 回以上なのでそれ以上にも）訪問しているということは、花がメインとなった場所や施設への思い入れが強いということでもある。

iii. 頻繁に訪問する季節の割合

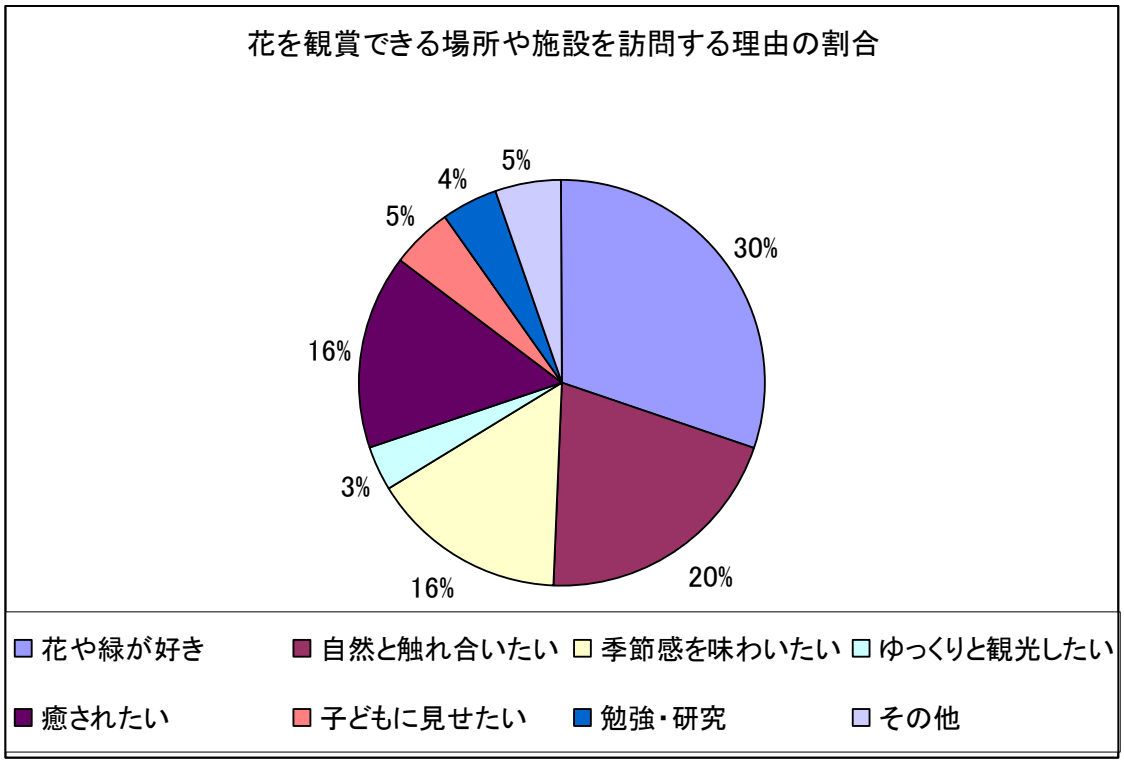


頻繁に訪問する季節は、複数回答により、票数でグラフを作成した。春は 98 票、次いで、秋が 69 票、夏が 41 票、そして冬が 28 票だった。

気候がよく、桜のきれいな春や紅葉が美しい秋と違い、暑い夏や冬にもよく訪れていたのは地元の人がほとんどだった。

iv.　花を観賞できる場所や施設を訪問する理由の割合

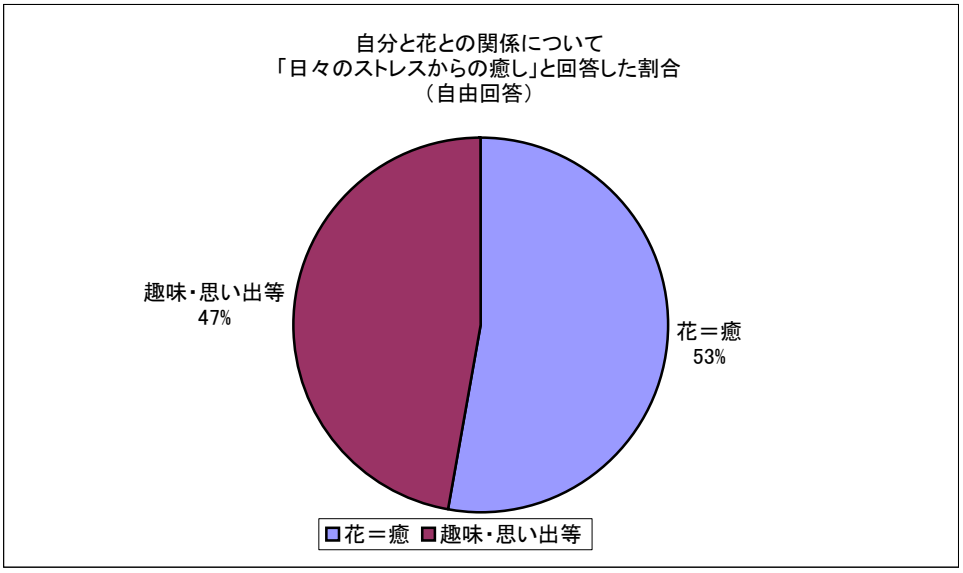
　ここで今回のアンケート調査の最終目標である、花を観賞できる場所や施設を訪問する理由について分析する。



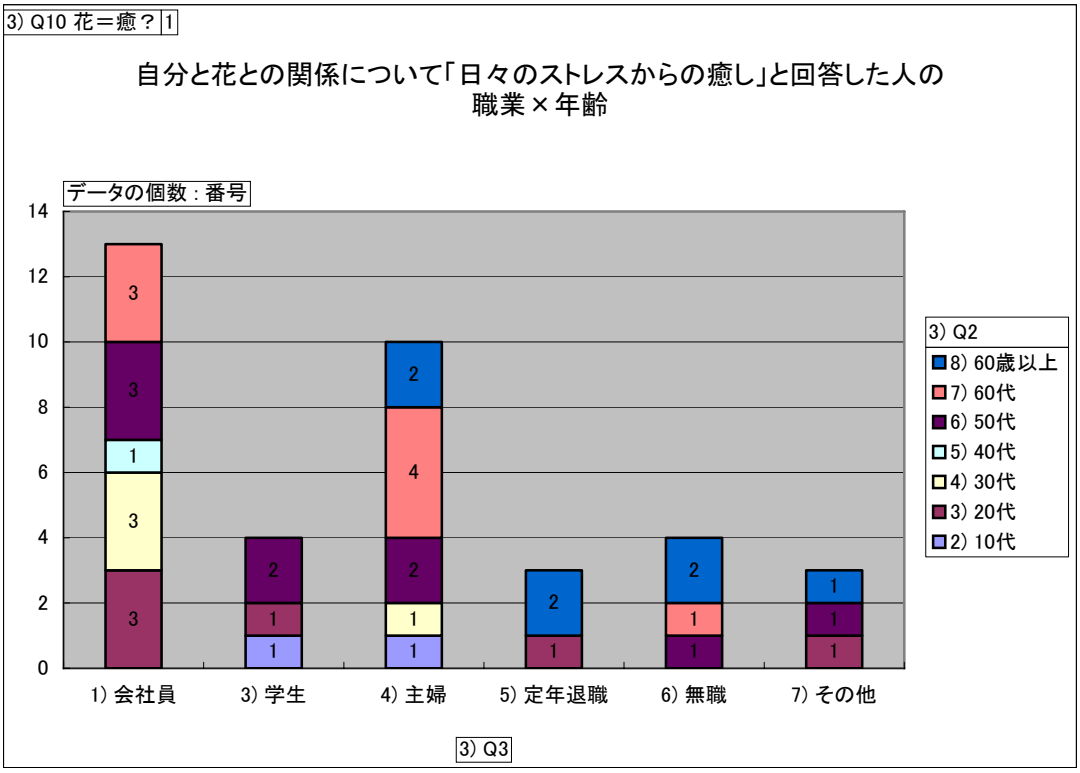
　花を観賞できる場所や施設を訪問する理由の割合は、「花や緑が好き」の 30%、「自然と触れ合いたい」の 20%、「季節感を味わいたい」と、「癒されたい」の 16%、「子どもに見せたい」と「その他」の 5%、そして、最後が「勉強・研究」の 4%であった。

　私たちが仮説を立てていた「癒されたい」は、一番大きい割合である「花や緑が好き」の半分の 16%であった。しかし、アンケート項目も「花や緑が好き」、「自然と触れ合いたい」、「季節感を味わいたい」・・・という順番で並べてあるため、一番妥当性の高いと思われる「花や緑が好き」という項目に○をしてしまう傾向があるように見ていて感じた。無制限複数回答と勘違いし、たくさん○をつけている回答者に、「○は２つまでですよ。」と言ったり、老人にはペーパーに添え書きしたりしたところ、「花や緑が好き」へつけていた○を削って、他の項目に○をつける回答者もしばしばあったため、希望をもって「自分と花との関係について」の自由回答を分析すると、待っていた結果があった。

v.　自分と花との関係について「日々のストレスからの癒し」と回答した割合



「自分と花との関係について」の自由回答欄に、「(日々のストレスからの癒し)」と回答した人は、なんと全体の 53%を越えていた。それ以外は「母が昔毎日のように飾っていた」「毎日世話をしていて、育ったときうれしい」など、思い出や趣味にかかわる回答があった。癒しを求める人々の構成が気になりグラフ作成すると、次のような結果がでた。



自分と花との関係について「日々のストレスからの癒し」と回答した人の職業と年齢のグラフであるが、最も癒しを求めているのは会社員であり、次いで主婦であった。20代から定年目前の60代まで、みな均等に花から癒しを求めていた。主婦については、若い年代の主婦の方が、子どもが小さいゆえに癒しを求めて花がメインである場所や施設に足を運ぶと考えていたが、以外にも50代～60代の主婦に多く見られた。一番癒しを求める程疲れ切った会社員達を支えている主婦達もまた、忙しさや日々溜まっていくストレスから癒しを求めているのかもしれない。また、定年退職、定年退職を含んでいるであろう無職において、花による癒しを求める傾向が少ないのは、定年後の趣味として、花や緑の写真を撮ることや、実際に花や緑を育てることが趣味と化しているからではないだろうか。ジュースを飲みながらたくさんお話をしてくれていた何名かの退職後の老人が写真撮影の道具や水彩画のセットを持っていたので「多才ですね。」と声を掛けると、「おじいちゃんたちは毎日休日なようなもんやからなぁ。何かこうして趣味でも見つけないと・・・」とみなが笑って同じようなことを言っていたことを思い出した。老人達にとって、花とは趣味であり、毎日の楽しみであるということもわかった。

これまでの分析では予想に反することが目立っていたが、最後に一つ自分たちの仮説に近い結果「癒しを求めて花を見に来る人がいる」ということを導き出すことが出来たのではないかと思う。

【まとめ】

他の観光地や人々が休日を過ごす場所と比較できるようなアンケート項目を作ることができなかったので、最終目標であった「様々なさまざまな観光地がある中で、『花を中心とした観光』が選ばれる理由の調査」までは至らなかったことは残念であったが、今回『人々が花をメインとした観光地へ行く理由』を調査できたことには非常に満足できた。

《人々が花をメインとした観光地へ行く理由とは？》

- **前提**：手ごろさ
- **理由**：花や緑が好きで、触れ合いたい　ＡＮＤ・ＯＲ　癒し

これまでの分析も踏まえ、植物園にやってくるには、明確な目的（理由）の前に、「手軽さ」ということが重要となってくるのではないかと考えた。やってくる人の中には、京都市内、県内、近畿県内の人が多かったこと、植物園について知った手段がその他に偏っており、そのことは「生まれて物心ついた時から植物園の存在を知っていた」地元の人々が多いということを意味していること、自宅から植物園までの所要時間が普段の休日に出かける際の目的地までの見積もり時間よりも全体的に非常に短いことがその考察に至ったの理由である。そして、手ごろであるという前提があった上で、目的に達しようと人々は行動を起こすのではないだろうかと私たちは考えた。花や緑が好きで、触れ合いたい、という理由であっても、花から癒しを求めているとしても、アンケート結果から休日は家で過ごすことが多い人々が、行動を起こすということは、すぐ近くにあるが故、即ち、手ごろであるが故にやっと「動こう」と思えたのではないかと私たちは考えた。

今回の分析から明らかになった「人々が花をメインとした観光地へ行く理由」とは、一つの大きな枠として、『花や緑が好きで、触れ合いたい』ということ。これは最後のグラフで説明した趣味や思い出につながるものでもある。そして、もう一つの大きな枠が、私たちが仮定していた、『花＝日々のストレスからの癒し』というものである。前述の通り、「自分と花との関係について」という自由回答項目において、「花＝日々のストレスからの癒し」ということを綴っていた回答者は、全体の半分以上を占めていた。このことから、『癒し』も人々が花を求める大きな理由であることが証明できたと考える。

【おわりに】

今回アンケート調査を行うことによってアンケート調査の技術ともに、たくさんのことを学びました。

- 自分たちの目的を達成できるようなアンケート項目を考え出すことは想像以上に難しいことであったこと。
- 何週にもわたって何度も試行を行ったが、実際に集計を行ってみるときにならなくては不利・不便であることが予測できなかったこと。
- 自分たちの目的を達成できるように作ったはずのアンケート項目であっても、必ずしも思ったとおりの結果にはならないということ。
- 集計までは簡単でも、それを組み合わせてたくさんのグラフを作って文章を書いていくことは思った以上に大変であったこと。
- 飲み物やお菓子を用意しても、止まってくれない人は止まってくれない。
- 今回のアンケート調査を行うにあたってお世話になった方々はみなさんとても親切であったこと。

☆今回お世話になった方々☆

☆ 小沢先生
☆ 小沢特殊講義ＴＡのみなさん
☆ 小沢特殊講義のみなさん
☆ 京都府立植物園の上田さん
☆ 京都府立植物園の受付係さん

アンケート回答者の皆さん

☆ おじいちゃんたち
☆ おばあちゃんたち
☆ お母さんたち
☆ お父さんたち
☆ 小さい子たち

・
・
・

ありがとうございました。

『花がメインとなった観光地』へおこしになった方への意識調査アンケート

立命館大学経営学部
加藤佳奈
松本麻里

私たちは、花を観賞できる場所や施設へおこしになった方への意識調査を行っております。この調査は、**今日さまざまな観光地がある中で、『花を中心とした観光』が選ばれる理由の調査を目的としたもの**であり、いただいた回答はアンケート目的以外に使用することは一切ございません。また、アンケートに回答していただいた内容は、統計上の処理を行い、個人が特定できる形で公表することは一切ございませんので、率直なご感想をお聞かせください。ご協力をよろしくお願いいたします。

※　家族・夫婦など、団体の場合は代表者の方が回答してください。
※　特別に指定のない限り、１問につき１つ回答してください。

1.　「京都府立植物園」での観光についての質問にお答えください。

1-1.　本日はどちらからおこしになりましたか？

1.　京都市内　　2.　京都府内
3.　近畿県内　　4.　その他

1-2.　本日はどのような交通手段でこられましたか？

1.　徒歩　　2.　自転車　　3.　バイク　　4.　自動車
5.　バス　　6.　電車　　7.　その他

1-3.　ご自宅から京都府立植物園までの所要時間は次のうちどれにあてはまりますか？

1.　30 分未満　　2.　30 分以上～1 時間未満
3.　１時間以上～1 時間半未満　　4.　１時間半以上～2 時間未満
5.　２時間以上～2 時間半未満　　6.　２時間半以上～3 時間未満
7.　３時間以上

1-4.　今回「京都府立植物園」への訪問を**決定した**のは誰ですか？

1.　本人　　2.　恋人　　3.　配偶者
4.　親　　5.　子供　　6.　友人
7.　その他

1-5. この施設をどのようにして知りましたか？

1. 新聞記事　2. 雑誌　3. テレビ広告
4. 地域情報誌　5. バス・電車等車内広告　6. 街のポスター・看板
7. インターネット　8. ロコミ　9. その他

1-6. 今回、訪れた「京都府立植物園」の満足度は次のうちどれにあてはまりますか？

1. 期待以上　2. 期待どおり　3. 期待はずれ

1-7. 今回、訪れた「京都府立植物園」にまた訪れたいと思いますか？

1. 思う（1-8.へ）　2. 思わない（1-9.へ）

1-8. また訪れたいと思う理由をお書きください。

（　　）

1-9. また訪れたいと思わない理由をお書きください。

（　　）

2. 花を観賞できる場所や施設全般についての質問にお答えください。

2-1. 花を観賞できる場所や施設への訪問は、今回が初めてですか？

1. はい（質問４へ）　2. いいえ（質問２へ）

2-2. この１年間で花を観賞できる場所や施設に何回訪れましたか？

（今回を含んでお答えください。）

1. １回以上３回未満　2. ３回以上～５回未満
3. ５回以上～10 回未満　4. 10 回以上

2-3. どの季節によく訪れますか？（複数回答可）

1. 春　2. 夏　3. 秋　4. 冬

2-4. 花を観賞できる場所や施設を訪れる理由は次のうちどれに当てはまりますか？

（2 つまで選択可）

1. 花や緑が好き　2. 自然と触れ合いたい
3. 季節感を味わいたい　4. ゆっくりと観光したい
5. 癒されたい　6. 子供に見せたい
7. 勉強・研究　8. その他（　　）

次のページへ進んでください。

3. 最後にあなたご自身について教えてください。

3-1. あてはまる性別の番号に○をしてください。

1. 男　　2. 女

3-2. 代表者の方にあてはまる年代層の番号に○をしてください。

1. 10 歳未満　2. 10 代　3. 20 代　4. 30 代
5. 40 代　6. 50 代　7. 60 代　8. 60 代以上

3-3. あてはまる職業の番号に○をしてください。

1. 会社員　2. 自営業　3. 学生　4. 主婦
5. 定年退職　6. 無職　7. その他（　　）

3-4. 本日はどなたと来られましたか？

1. おひとりで　2. 妻・夫（恋人も含む）
3. 家族　4. 友人
5. その他（　　）

3-5. 休日はどれくらいの頻度で出かけますか？

週に（　）回　　月に（　）回

3-6. 休日は何をして過ごしますか？（2つまで回答可）

1. 旅行（観光・宿泊・テーマパーク等）
2. ショッピング
3. 習い事（ジム・料理教室等）
4. 教養活動（美術館・博物館等）
5. 趣味（映画・カラオケ・ドライブ・スポーツ観戦等）
6. 野外活動（アウトドア・スポーツ等）
7. 家で過ごす

3-7. 休日に出かける際、目的地への平均所要時間は次のうちどれにあてはまりますか？

1. 30 分未満　2. 30 分以上～1 時間未満
3. 1 時間以上～1 時間半未満　4. 1 時間半以上～2 時間未満
5. 2 時間以上～2 時間半未満　6. 2 時間半以上～3 時間未満
7. 3 時間以上

3-8.　休日に出かける際、どのような交通手段を利用しますか？

1. 徒歩　　2. 自転車　　3. バイク　　4. 自動車
5. バス　　6. 電車　　7. その他

3-9.　休日に出かける際、一人当たりの予算は次のうちどれに当てはまりますか？

1. ¥1000 未満　　2. ¥1000 以上～¥2000 未満
3. ¥2000 以上～¥3000 未満　　4. ¥3000 以上～¥4000 未満
5. ¥4000 以上～¥5000 未満　　6. ¥5000 以上～¥6000 未満
7. ¥6000 以上～¥7000 未満　　8. ¥7000 以上～¥8000 未満
9. ¥8000 以上～¥9000 未満　　10. ¥9000 以上～¥10000 未満
11. ¥10000 以上

3-10.

あなたにとって、花とはどのような存在ですか？ 花を栽培することや観賞することで、幸せになれたり、ストレスが和らげられたりすることはありますか？ ライフスタイルの中での『あなたと花との関わり』を、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。